

先週の説教要旨

「なぜ、生きている方を」井上隆晶牧師
I コリント 15 : 44~50、
ルカ 23 : 50~24 : 8

①【キリストの埋葬】アリマタヤのヨセフは、イエス様の遺体を十字架から降ろし、亜麻布で包み、岩に掘った墓の中に納めました。ここには「遺体」という言葉が三回(52、53、55節)出て来ます。キリストは単なる幻ではなく、本当に実在した方であり、本当に死んで葬られたのだという事を丁寧に書いているのです。人は死んだら終わりです。もう何もできません。すべてが終わるのです。しかし、人がこれ以上何もできないところから、神ご自身のわざが始まるのであり、人の手を一切借りないところで、神は新しいことを始めるのだということを聖書は教えようとしています。私たちは、いつも人間のわざがすべてだという世界に生きており、神の世界を知らないのです。それほど私たちは生活の中から神を追い出しているのです。「その日は準備の日であり、安息日が始まるようにした。」(54節)とルカは書きます。すべてが終わった日は、何かが始まるようにしている準備の日なのだ、とルカは語るのです。

②【生きておられる方】婦人たちが朝早く墓に行くと、墓石がわきに転がしてあり、イエス様の遺体が見当たりませんでした。すると天使が現れ「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだ、ガリラヤにおられたころ、お話になったことを思い出さない。人の子は必ず、罪人たちの手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっている、と言われたではないか。」(5~7節)と言いました。「生きておられる方」というのは聖書では神のことで

す。キリストは神なのです。だから殺されても死なないのです。人間は本来、死ぬようには造られていませんでした。命である神は死を創造しなかったからです。死は人間の罪によって始まりました。人間は毎日罪を犯しますし、毎日人は死んでゆくの、人間は罪を犯すことに慣れ、死にも慣れ、死は当然なことだと思っています。しかしキリスト教は、死は異常であり、神の敵であると宣言します。「最後の敵として死が滅ぼされます。」

(I コリント 15 : 26) 神が創らなかったものは必ず、この世から抜き取られます。神はこの死を滅ぼすために人間になりました。人間の体を持たなければ死ぬことはできないからです。そして神自らが人間性をもって死を体験し、死の世界に飲み込まれ、内側から死を破壊したのです。

③【人類を復活させることは神の仕事であること】昨年4月に永眠されたカトリックのフランシスコ教皇が、死ぬ前に書いた手紙があります。「この世のすべての愛する子どもたちへ。私は今日、この人生を通り過ぎる者として、小さな告白を一つ遺したいと思います。毎日、顔を洗い、身だしなみを整え、鏡の前に立って生きてきました。その姿が「私」だと信じていました。しかし、振り返れば、それはただの一時的にまとう衣でした。私たちはこの身体のために、時間を使い、お金を使い、愛情と情熱を注ぎます。美しくありたい、老いたくない、病気になりたくない、そして…死にたくない願いながら。ですが、結局この身体は、私の願いにかかわらず、太り、痛み、老い、そして静かに私から離れていきます。この世で、本当に私のものと呼べるものは、一つもありません。…この世の出来事は、すべて、それぞれの流れに従っています。私たちができるのは、その流れの中で少しの余白を与えることです。少しの

週報

日本キリスト教団 都島教会

伝道所設立1957年12月1日 教会設立2001年12月2日
〒534-0012 大阪市都島区御幸町2-6-17

TEL06-6922-1120 FAX06-6922-1120

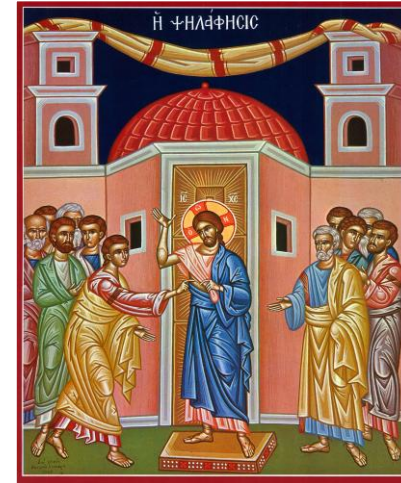
Eメールアドレス: 3533osgm@jcom.zaq.ne.jp

ホームページアドレス: <https://miyakojima-church1.com>

郵便振替00920-4-1442 日本基督教団都島伝道所

主任牧師 井上隆晶

2026年4月12日 No.1868



《トマスの主日》

都島教会の2025年度の宣教方針

標語 《会堂建築の準備をしよう》

聖句 「主御自身が建ててくださるのでなければ、家を建てる人の労苦はむなし。」(詩編127:1)

2025年度の目標

- 1 毎週礼拝を守り、礼拝出席平均28名を目指します。
- 2 一年間に一人を礼拝にお誘いします。
- 3 信徒の交わりを大切にします。
- 4 会堂建築のための具体的な準備を進めます。